

桜のきせき



令和5年6月28日

No.53

文責：校長 稲葉裕美

6月は「いのちをみつめる強調月間」でした。

★6月1日校長講話・「6さいのおよめさん」読み聞かせ

今年の6月1日「いのちを見つめる日」には、絵本「6さいのおよめさん」（文：鈴木中人、絵：城井 文）の読み聞かせをして、全校児童に命の尊さを考えてもらいました。お話に出てくる景子ちゃんは3歳の夏に突然、小児がんを発症し、2年11か月闘病した末、6歳で亡くなってしまいました。この物語は、景子ちゃんのお父さんである鈴木中人さんが書かれたものです。

春日の子どもたちは、このお話に静かに聞き入り、教室に帰って感じたことや考えたことをまとめました。学年別に紹介しますので、それぞれのご家庭でも、自分の命を大切にすること、周りにいる人々も同じようにとても大切な命をもっていることをお話いただければと思います。

★1年生★
絵でかきました

★2年生★

- ・なくなったら二度ともどつてくることがない「いのち」
- ・おかあさんがぼくを生んでくれたから、たいせつにする
- ・いのちは、世界に一つだけのたいせつなもの
- ・じぶんをたいせつにする
- ・しんだらもどつてこない、とてもたいせつにしないといけないとわかりました
- ・いのちは、とてもとてもだいじだ
- ・たった一つだけのいのちをかんたんになくすのは、いちばんだめなことだと思いました。
- ・いのちはじぶんでまもる
- ・じぶんがなくなると、かぞくがすごくかなしむことをはじめてしました。

いのち
たいせ



★3年生★

- ・いのちは、生きていてとても大切なものだし、うまれたらうれしいものだと思いました
- ・いのちは、いつでもきけんととなりあわせて、うまれたのはきせきだと思った
- ・いのちは大切に、いっしょうけんめい生きていかないといけないと思いました
- ・いのちは一人に一つの大事なものの、なくなったいのちは、けしてもどつてこないものということが前よりよくわかりました
- ・いのちは一つだから、しんだらもう生き返らない。みんな一人一人生きるためにある。
- ・わたしたちのいのちが家族にとっても、とてもたいせつなんだなあと思いました。家族が悲しまないよううにいのちを大切にしたい。
- ・いのちは一人に一つもっているものです。いのちがあるからみんなが活着ているんだと思いました。
- ・いのちは一つしかないから、むだにしてはだめ。活着ることは大切。
- ・いのちは一生のたからもの。いのちより大事なものはないとしました。
- ・いのちはとっても大切に尊いもの